

東日本大震災により、犠牲になられた方々のご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。

また、被害にあわれた方々に、謹んでお見舞い申し上げます。1日も早い復興を、心よりお祈りいたします。

BFSニュースレター

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2011年10月3日発行

Vo1. 29, 第29号

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

いまの市場は、全体より部分を見よう！（但し、外国株の話）

このところ、ニューヨークダウは、1日3桁の+の変動は当たり前。7月～9月の間に、18回も1日200ドル以上、上下し、8月には下の通り、3日連続160億株もの出来高で、ジェットコースターもこれほどまでは、という激しい上下変動を繰り返しました。これは、ニューヨーク取引所始まって以来の記録だそうです。

8日(月)-634.76

9日(火)+429.92

10日(水)-519.83

11日(木)+423.37



どうして、ここまで上下変動が大きく、出来高は記録的になるのか、これは、その資金の出所や売買の手法によるところが大きいのです。そして、その中身を知っていると、市場の動きに振り回されることなく、さらに、下がった株価の状況の中で、思いのほか安く仕込み、あとで大きく利益を上げることができます。

まず資金の出所ですが、先進国の高齢化が進み、十分すぎるお金が年金、貯金、保険となつてしまったこと。さらには、原油価格の高騰で、中東産油国に積み上げられた多額のオイルマネー。それに、中国マネー。中国の外貨準備高は3兆ドルを突破し、政府系ファンドが、これを運用しています。

これらの資金は、4000兆円ともいわれ、世界中を駆け巡っているのです。その特徴は、非常に足が速いこと。投資機会を求めて、株式から、住宅抵当証券、原油・資源、食糧、金など、次から次に移動して、節操がない。危険な兆候が見えようものなら、それこそ水鳥の羽音程度の出来事であっても敏感に反応し、われ先にと逃げ出し、次の投資先に向かうというのです。（大前研一—お金の流れが変わった！より）

これらのお金を動かすのは、ウォール街や世界の金融センターの限られたプレーヤーで、彼らが、プログラム売買をします。昨年5月に、ニューヨークダウが一瞬で1000ドル下がる事態になったのは、超高速売買が原因といわれています。また先物取引は、現金取引よりはるかに取引金額が大きくなり、これも変動幅を大きくします。上場投資信託にも、連動を目指す株式指数の3倍も動くものがあり、これらが引けにかけて商いを活発化させ、上下変動幅を増幅しているといわれています。

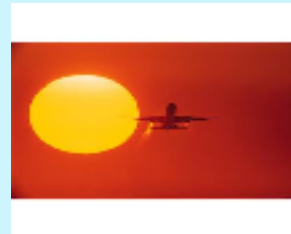
これらの取引の特徴は、株価指数（インデックス）への投資ですので、個別銘柄の事情に関係なく、市場全体が上下することになります。そして、その上下幅が過剰に大きくなるので、上のような、1日に400ドルや500ドルも上下する動きを招くわけです。

このような資金の出所や取引手法を知っておきますと、あまりあわてず、またやっているなという程度に受け止めることもできます。（2ページへ続く）

これからのキーワードは「産業の空洞化」

おそらく、これからの日本を考え、事業を展開していく上で、この言葉を忘れては進まないといってよいほどのキーワードになることでしょう。

経営者は、日本にもものづくりの拠点を置くことを見限っています。今回の超円高、大震災・原発問題、そして、少子高齢化による市場の縮小。どれをとっても、日本に製造拠点を置いておく意味は少なくなっているのです。ことは、韓国、台湾、中国との激しい競争なのです。まさに、中小企業まで、雪崩を打って海外に進出していて、タイの特区には、大田区の中小企業が集まる、大田区エリアのようなところもあるといえます。海外へのM&Aも、超円高で非常に活発になっています。



しかし、これは、喜ぶべきことと捉える必要があります。ここでの考え方は、海外でできることは、どんどん海外でやればいいということです。そして、日本でやるべきことを日本でやるのです。いわゆる、スイス型産業構造です。スイスに本社のあるネスレのスイスの売上は、2%に過ぎません。製造・販売拠点も、全世界に散らばっています。それでいながら、スイスは、トップクラスの豊かな国です。

規制緩和をすすめ、役人支配・既得権益を排除し、産業構造の転換を図っていけば、進むべき日本の姿は浮かび上がってくるはずですが、産業の空洞化を、日本の再生、発展を図るために、いいチャンスと捉えるべきでしょう。

今月の言葉:

一步抜きん出るには、努力の上に辛抱という棒を立てるんだよ。この棒に花が咲くんだ。偉そうにするなよ。世間の皆様のお力添えと感謝しなさい。錐だってそうじゃないか。片手で錐は揉めぬ。——父の教え 桂小金治



弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>

びとうファイナンシャルサービス公式ブログ

<http://ameblo.jp/bitofinancialservice/>

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

第9回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』開催のご案内!

-こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる-

毎回、大変好評なセミナーです。ぜひ一度、土曜の午後のひと時を「セカンドライフを豊かに過ごすために」使ってみませんか?

~参加無料 限定10名~

日時: 2011年10月29日(土) 15:00~17:00

場所: TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC

(日比谷帝劇ビル地下1階) <http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅: 有楽町・日比谷駅)

講師: 尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

お申し込みは、下記メールまたは電話にて「10月29日セミナー参加希望」として、お名前、年齢、ご連絡先をお知らせください。

E-メール: info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)
代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022
東京都港区海岸1-2-20
汐留ビルディング3階

電話: 03-6721-8386
携帯: 090-4934-3121
FAX: 050-3156-1072
電子メール: info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

いまの市場は、全体より部分を見よう! (但し、外国株の話)

ただ、もっと大事なことは、こういう事情に、大きく利益を取れる機会が一緒についているということです。

なぜなら、これらの資金は、プログラム売買で、株式指数(インデックス)を主に取引しますから、どの銘柄も、一律に売られるのです。そうしますと、業績がいいのに、過度に売られる銘柄が出てきます。たとえば、リーマンショックのときに、市場全体が大きく下げた時に、以下のような銘柄も一緒に下げましたが、本来業績がいいので、その後大きく戻しています。

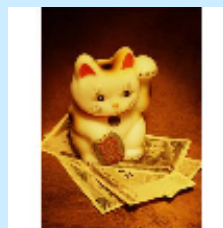
アップル	176.79ドル (2008.5)	82.58ドル (2008.11)	203.94ドル (2009.10)
BHP	95.00ドル (2008.5)	29.13ドル (2008.11)	81.28ドル (2010.4)
ティファニー	49.03ドル (2008.5)	17.21ドル (2009.3)	51.46ドル (2010.4)
マイクロソフト	30.00ドル (2008.4)	15.28ドル (2009.3)	31.00ドル (2009.12)

今回のギリシャ財政危機を発端とする市場の下げも、ミニ・リーマン・ショックといえ、本来ここまで下げなくてもいいのに、という銘柄が、特に、外国でたくさん出て来ています。「全体より部分を見

る」すなわち、株式指数ではなく、個別株を見ると、今のような市場環境の時、特に意識するとよいでしょう。多くのグローバル企業の優良株が、よだれが滴るくらい、割安になっています。

ただし、日本は、市場の構造的な問題、株主重視姿勢の欠如、グローバル・スタンダードのコーポレート・ガバナンスに遅れていることから、まだ、どこまで下がるかわからないという懸念が強く、用心する必要があります。

絶好といってもよい、外国優良株のいまの投資機会を逃さなければ、あとで大きな投資成果を上げられることでしょう。



外国の個別株をアドバイスできる日本で唯一のFP・資産運用アドバイザー、びとうファイナンシャルサービスは、このような観点から、お客様に投資アドバイスをしています。